

2017年10月吉日

報道関係各位

精度管理に関する会員サービスを開始しました

検体測定室連携協議会

検体測定室連携協議会(座長:矢作直也 筑波大学准教授)は、2017年11月より、検体測定室におけるHbA1cの検査機器の精度管理に関する会員サービスを開始したことをご報告申し上げます。

検体測定室(ゆびさきセルフ測定室)とは、自己穿刺により指先から採取したわずかな血液を用い、糖尿病や脂質異常症といった生活習慣病に関係のある項目を検査できるスペースです。

現在、地域住民のファースト・アクセスの場として健康に関する相談を幅広く受け付け、必要に応じ、かかりつけ医をはじめ適切な専門職種や関係機関に紹介するとともに、健康に関する情報提供を積極的に行う健康サポート機能を有する薬局やドラッグストアが増えており、2017年9月末時点での検体測定室数は1,569箇所となりました(厚生労働省 医政局 地域医療計画課調べ)。

検体測定室における測定の精度を適正に保つ検査機器の精度管理に関しましては、「検体測定室に関するガイドライン」で規定されておりましたが、そのサポート体制が課題となっておりました。そのような中で、検体測定室連携協議会は、一般社団法人 検査医学標準物質機構、測定機器の製造業者等の皆様のご協力の元で、当協議会の会員サービス充実の一環として、外部精度管理に関する会員サービスの準備を進めて参りました。このサービスにより、検体測定室における測定の精度を適正に保つことに寄与でき、検体測定室の信頼性向上につながるものと期待しております。

報道関係の皆さまには、引き続き、検体測定室連携協議会の活動に対しまして、ご協力並びにご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

【参考】 検体測定室連携協議会 WEB サイト

検体測定室運営者向けサイト

<http://www.yubisaki.org/>



<本件に関するお問い合わせ先>

検体測定室連携協議会 担当:辰巳、神田、加藤、海老塚 Tel:03-5833-7045